

特別支援教育課通信 北山の陽だまり



平成29年11月発行 (第31号)

【真っ赤なもみじと研修センター】

朝晩の冷え込みが厳しい季節となりました。今年は、爽やかな秋を実感することが少なく、あっという間に冬がやってきたという感じです。研修センター屋上から周囲を見渡すと、遠くの山に雪がかぶっているのが見えます。研修センターのある北山では、広葉樹のほとんどが葉を落としてしまいました。

特別支援教育課が担当する研修講座は、12月5日の特別支援教育専門研修講座を残し、今年を終了です。学校現場においては、2学期のまとめや通知票の作成等で忙しくなることかと思えます。体調管理に留意され、風邪などひかないように気をつけていただければと思います。

さて、センターのエントランスに「特別支援学校の作品ギャラリー」があります。各学校での授業や作業の時間につくった児童生徒の作品が展示されています。手工芸、木工、窯業…など、作り手の温もりを感じる作品が並んでいます。教育相談などで来所した家族の方からは、「この焼き物は売ってもらえるのですか？」という問い合わせもあるほどです。研修等で来所したときには、是非ご覧いただければと思います。



【温もりを感じる作品ギャラリー】

特別支援教育課長

【 県立盲学校、水戸聾学校の参観を通して 】

特別支援学校の初任者が、県立盲学校と水戸聾学校での所外研修を行いました。この2校は、明治41年に「私立茨城盲啞学校」として設立され、今年、創立110周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。過去には、ヘレン・ケラーも訪れたこともあるということです。

2校に共通しているのは、①生後まもなく視覚や聴覚の障害がわかった時点で早期教育相談を実施している ②幼稚部→小学部→中学部→高等部（普通科、専攻科）と系統的なカリキュラムの中で、自立への力を付けている ③全県から通うために、寄宿舍で生活している児童生徒もいる ④部活動にも力を入れ、関東大会に出場するなど、生徒たちがいきいきと活動している…などです。

水戸聾学校を参観した初任者からは、「『聞こえないから伝わらない』のではなく、『伝える気持ちが大変だ』ということを学びました。」との感想がありました。実際に触れ合うことは大切です。



【水戸聾学校での聴覚障害セミナー】